

お出かけはカラフルに

藤井 孝子

洋服ダンスの扉を開く。クリーニングして収納しており、保存状態はいい。押し込められたラッシュの通勤電卓状の衣服を眺め、断捨離を始めようと、礼服を除くすべてを取り出す。

畳んでぎゅうぎゅう詰め衣装箱の衣服も部屋に広げる。上下セツトの一組だけを、記念に取り置く。47年前、ゴムへの新婚旅行の帰路、祖母にあいさつするため、京都に寄り道をした。その時買った紺色の着丈45センチの超ミニスカートと、紺白赤の極太ヨコシマのニットのセーターである。

もう一着は、南十字星が見たいとバンコクに旅行した時、現地で仕立ててもらったタイシルク。紺とピンクのボーダー柄のワンピースで、ボディラインがそのまま出るタイプである。当時ウエストは、62センチだった。元日本兵の小野田さんがジャングルから出てきた当時のニュースを思い出した。

ニューヨークのメトロポリタン美術館玄関前の階段でポーズをとるロングコート。アメリカは、動物愛護の意識が高く、毛皮は敬遠されるといので、わざわざケミカルの素材を選んで買った。近い将来、運転免許証を返納したら、これからは必要になるかもしれない。しかし、こんなロングコートを着たら、裾が絡まって転ぶかもしれない。でも軽くて暖かいしやはり断捨離はもう少し考えてから……。

気合を入れなおし、スーツに目を移す。仕事でプレゼンテーショ

ンに向かう時、勝利への決意を表明する原色（緑、赤、黄）のスーツ
数着の他は、ほとんどが、ブラック、グレー、ベージュ系だ。

さて、私のこれからのワードローブのコンセプトは明るく楽しく
軽やかに。

インナーを明るい色でアレンジすれば、モノトーンの洋服は、着
用可となり、ハイヒール用だったロングスカートは、少し短く普通
丈に仕立て直しをすれば良いと取り置く。

第一次断捨離は、総量の30パーセント断捨離で終了。

退職から13年が過ぎ、ぼっこりお腹体型に合わせたリフォーム
は続く。インナーが無彩色系から、黄色、ピンク、水色と鮮やかに
なった。

スカートも単色やチェックから、花柄や、原色になった。

「お出かけは、カラフルに」が合言葉。

作者 藤井 孝子 題名 お出かけはカラフルに

山陽新聞夕刊 2020.01.16 掲載